

アメリカ心臓協会 (AHA) 成人の心肺蘇生 (CPR) トレーニングコースにおけるフィードバック装置の使用要件



心肺蘇生と救急心血管治療

2017年8月15日発行

AHAは、2019年1月31日までに、成人のCPRスキルを指導するAHAのすべてのコースで、指示機能を搭載したフィードバック装置またはマネキンを使用することを必要条件にします。具体的に、指示機能を搭載したフィードバック装置またはマネキンは、最低限、CPRトレーニング中の胸骨圧迫のテンポと深さに関する情報を視覚/聴覚（または両方）からフィードバックするタイプです。この必要条件には、米国内および米国以外の国で指導されているAHAのBLS（一次救命処置）、ACLS（二次救命処置）、ACLS EPおよびハートセイバーコースが該当します。

小児および乳児のCPRに使用可能な装置が増えるに従い、小児および乳児に対するCPRのスキルを指導するコースでも、将来的にはフィードバック装置を使用することが必要条件となります。

この必要条件の科学的根拠*

『AHA心肺蘇生と救急心血管治療のためのガイドラインアップデート2015（2015 AHA Guidelines Update for CPR and ECC）』は、胸骨圧迫のテンポ、深さ、胸郭の戻りなどについて、改善点を視聴覚フィードバックで学習者にリアルタイムで提供するフィードバック装置の有用性を示す研究を強調しています。

『AHA心肺蘇生と救急心血管治療のためのガイドラインアップデート2015（2015 AHA Guidelines for CPR and ECC）』で述べているように、「残念ながら、プロバイダーやインストラクターがCPR能力不足を確認するのは依然としてかなり困難であるため、適切に焦点を絞ったフィードバックを行って今後の能力を改善することは難しい。CPR能力を評価し、フィードバックを提供するテクノロジーが、この問題への対処に理論上は役立つと考えられる。」

フィードバック装置は、受講者が非常に重要なCPRスキルを習得するのに役立つ、能力を発揮するまでの時間を短縮することも、研究結果で明らかになっています。

科学に関する追加情報は、『AHA心肺蘇生と救急心血管治療のためのガイドラインアップデート2015（[2015 AHA Guidelines Update for CPR and ECC](#)）』の『パート14：教育、トレーニングにおけるCPRフィードバック装置』を参照してください。

定義および説明：指示機能を搭載したフィードバック装置**

指示機能を搭載したフィードバック装置は、圧迫のテンポ、深さ、手の位置、胸郭の戻り、および胸骨圧迫の割合を測定し、CPRスキルに関するこうした非常に重要なフィードバックを音声または視覚（または両方）から提供するものです。フィードバック装置は、マネキンに組み込むか、またはマネキンの付属品として使用することが可能です。AHAの必要条件を満たすためには、装置は、少なくとも圧迫のテンポと深さを測定し、音声または視覚（または両方）のフィードバックをリアルタイムで提供しなければなりません。この音声または視覚情報によって、受講者は自身のスキルをリアルタイムで自己修正することができます。

この必要条件を満たすために、AHAトレーニングセンターで使用可能な指示機能を搭載したフィードバック装置には、以下を含め数多くの種類があります。

- 既存のマネキンに追加、または既存のマネキンとともに使用するもの、
- マネキンの一部になっているもの、
- マネキンとともに使用するモニターまたは除細動器、または
- 「忠実度が高い」マネキン

注意：AHAでは特定の機器の検査や推奨は行いません。AHAトレーニングセンターは、機器の機能がAHAの必要条件に適合するかどうかについては、機器のメーカーに確認する必要があります。

*Bhanji F, Donoghue AJ, Wolff MS, et al. Part 14: education: 2015 American Heart Association Guidelines Update for Cardiopulmonary Resuscitation and Emergency Cardiovascular Care. *Circulation*. 2015;132(18 suppl 2): S561-S573.

**追加情報は、[AHA インストラクターネットワークとCPRverify](#)に記載の「CPRの指導のためのフィードバック装置の詳細」、 「よくある質問とその回答をまとめたQ&A集」、 および「フィードバック装置の使用に関する研究文献一覧」を参照のこと。